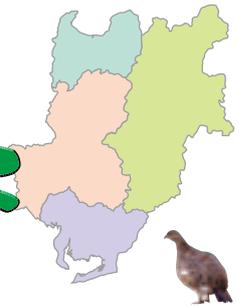




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



調印後に握手をする樋口校長と大西署長

遊々の森「和田小学校黒耀の森」調印 国有林を体験活動等の場として活用

(P4に関連記事)

主な項目	○「木づかい推進月間」の取組	P 2
	○地域との連携・調印等	P 4～6
	○シリーズ現場最前線	P 9



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

「木づかい推進月間」の取組

「木材の積極的な利用」を!

「木の日」の要望活動

「名古屋事務所」十月八日の「木の日」にちなみ、愛知県及び岐阜県の木材利用推進協議会（愛知県：鈴木和雄会長、岐阜県：後藤直剛会長）と名古屋事務所が連携し、「木づかい運動」のPRと「木材利用の推進」に関する要望活動を行いました。

この要望活動は、岐阜県知事・愛知県副知事をはじめ両県各都局長等、議会・教育委員会、中部地方整備局、東海農政局、岐阜県警本部等に対し、「木材の利用推進に関する要望書」を手渡し、公共施設・学校等の木造化・内装の木質化、土木工事等における間伐材の利用、地域材を利用した木造住宅の建築促進、木質バイオマスエネルギー利用の推進及び「美しい森林づくり推進国民運動」への



愛知県西村副知事への要望活動

理解と支援をお願いしました。

地域材の利用拡大を呼びかけ

「木の日」統一要望を実施

「飛騨署」飛騨地域森林・林業・木材産業活性化センターと飛騨森林管理署は「木づかい推進月間」の取組として十月八日の「木の日」にちなみ、十月七日に高山市、飛騨市及び白川村において、岐阜県飛騨振興局、土木事務所、国土交通省高山国道事務所など国や県の機関のほか、各市村長などに対し地域材の利用拡大等に関する要望を行いました。

要望は三つのグループに分かれ実施し、高山地域はセンター会長の門前清孝飛騨高山森林組合長が、中日新聞、岐阜新聞の取材がある中で地域材の積極的な利用や間伐の推進など六項目について要請しました。

要請の中で出された意見は、武田裕治振興局長からは「森林整備や木材利用は吸収源対策としても重要。木材を生かして利用する循環として厳しい県財政であるが検討していきたい。県土の保全のためには森林整備が重要。県も国有林とともに取り組んでいきたい」といった話がありました。また、土野守高山市長からは「高山市は学校や支庁舎の新築は木造を基本に、学童机もすべての学校が木製となった。九月議会で景気対策として間伐の促進も盛り込んでおり、要望の事項



武田振興局長へ要請

に対しては積極的に取り組んでいる。環境対策としてペレット工場にも期待しており、高山で使う木は高山の木材で供給できるように山側もがんばってほしい」といった励ましもありました。

高山市では市立北小学校にペレットストーブが導入されるなど、積極的な木質利用が取り組まれており、十一月に市内国府町に完成するペレット工場の操業開始のほか、ライオンズクラブの五十周年記念行事として「飛騨高山エコチェーンネットワーク」が設立され環境を考える団体の繋がり、交流、情報交換などに取り組みなど、環境対策としての木材利用についても大きな期待が寄せられています。

感謝状の贈呈

国産材循環利用功労者へ

感謝状を贈呈

「販売課」国産材循環利用功労者への感謝状贈呈式を、十月七日、木曽官材市売協同組合入札会場において国有林土場等活用委託販売の開催と併せて行いました。

木材という循環資源を利用することは、森林の持つ多様な機能の持続的な発揮の面から極めて重要であり、健全な森林の整備や地球温暖化防止などへの貢献に繋がるものであることから、平成十九年度に当局管内の国有林材の積極的な活用を通じて森林資源の循環利用に功績のあった方々に対し、林野庁長官と中部森林管理局長の感謝状を贈呈しました。

国産材循環利用功労者

感謝状受賞者（敬称略）

◆林野庁長官感謝状

飛騨市森林組合

（岐阜県飛騨市河合町）

株式会社勝野木材

（長野県木曾郡南木曾町）

◆中部森林管理局長感謝状

高橋建設株式会社

（岐阜県揖斐郡揖斐川町）



受賞されたみなさん

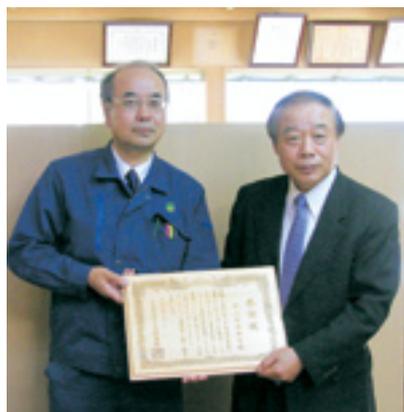
- 茅野市金沢財産区金沢林産作業所
(長野県茅野市)
- 有限会社今井木材
(長野県木曾郡大桑村)
- 株式会社西村木材店
(三重県松阪市)
- 丸ノ木材市売株式会社
(愛知県小牧市)
- 株式会社古根林業所
(長野県木曾郡大桑村)
- 名古屋国有林材協同組合
(愛知県名古屋市)
- のむら木材株式会社
(長野県木曾郡上松町)

【岐阜署】十月一日、永年分収造林事業に協力してきたとして、郡上森林組合が局長感謝状を贈呈されました。

郡上森林組合では、日本を代表する清流長良川の源流域にある鮎立中山国有林において、昭和五十五年から昭和六十二年の間、四林小班に及ぶ分収造林契約を結び現在に至っています。

この間、地球温暖化防止に森林の持つ機能が評価されるなか、森林の維持管理を適正に行うことにより、長良川源流域において、森林整備の必要性、森林の重要性の普及啓発活動に大きく貢献しています。

郡上森林組合の坪井代表理事組合長は、「これからも、自ら実践することで、森林の持つ機能が発揮できるよう努力していきたい」と、抱負を語っていました。



感謝状を手に 坪井代表理事組合長と坂元署長

分収造林事業で局長感謝状
贈呈される

自然再生への取組

木曾駒ヶ岳植生復元作業の実施

【木曾森林環境保全ふれあいセンター】
九月十八日、木曾駒ヶ岳から伊那前岳を結ぶ稜線の登山道沿いの踏み荒らし等により高山植物が荒廃した約二一〇平方メートルの箇所に、ボランティアを含み総勢三十名で繊維マットの敷設を行いました。

当日は、朝から台風十三号の影響による雨降りという最悪のコンディションとなりましたが、幸い作業を行うときには、稜線沿いにしては風もなく、雨も小降りとなり予定した時間内に全ての作業を終了することができました。

参加者からは、作業箇所の拡大や作業の内容や成果についてもっと積極的なPRが必要ではないか等の意見が出されました。



繊維マット敷設作業の状況

植生復元を目指して

【富山署】九月初旬から中旬にかけて、富山市黒部谷割国有林に広がる雲ノ平で、東京情報大学や雲ノ平山荘とともに、高山植物の植生復元作業を実施しました。雲上の楽園として多くの登山者を魅了する雲ノ平は、日本の秘境と呼ばれる広大な雪田草原を有していますが、木道整備前に登山者により踏圧された登山道を中心に、雨水等により洗掘され裸地化した箇所が広がっていることから、地元保護管理協議会と連携して、植生復元に取り組んでいるものです。九月初旬から、研究機関として参加している東京情報大学や作業を主体的に実施する雲ノ平山荘とボランティアの参加者により、植生や土壌水分などの環境調査を実施し、中旬から通称日本庭園や雷石で緑化ネットの敷設などの復元作業を実施しました。作業は環境や周辺景観に配慮し現地になじむように丁寧に進められ、登山者



植生復元に取り組む参加者

からは「次回来るのが楽しみです」などの声をいただきました。

今後は、二年間の予定で、雲ノ平のなかでも植生荒廃が確認されている、家庭園、雷岩、奥日本庭園の三地点で緑化ネットの敷設等の復元作業を行い、毎年のモニタリング調査の結果を踏まえ、他の裸地化箇所の植生復元作業のモデルとしたいと考えています。

美ヶ原高原で

自然再生事業が行われる

【中信署】十月八日、美ヶ原国有林内の「王ヶ鼻歩道」沿線及び牛伏山において、美ヶ原自然環境保全協議会主催の「二〇〇八美ヶ原園地等自然再生プロジェクト」が実行されました。

参加したのは、中信・東信森林管理署、県自然保護課、松本地方事務所等の四十一名です。

当署は、「王ヶ鼻歩道」沿線の笹刈り、レンゲツツジの周囲の刈出しを行いました。自然再生のための笹刈りは、数年前から行ってきましたが、「王ヶ鼻歩道」沿線は、初めての箇所です。笹が多いため、作業ははかどりませんでした。

当日は、美ヶ原高原特有の濃い霧が発生していましたが、紅葉シーズンを迎えたためか、多くの観光客が入山してました。そして観光客から「頑張ってください。お疲れ様」と声を掛けられ「王ヶ鼻歩道」沿線の笹刈りを予定どおり終了



熱心に笹刈り作業をする参加者

することができました。なお、自然再生として行う笹刈りは、三年間継続しないと効果がないと報告されていることから、今後も継続して取組に参加することとしています。



遊々の森「和田小学校黒耀の森」の協定調印式を開催

【東信署】国有林を利用して体験活動等を行う、遊々の森として「和田小学校黒耀の森」の協定調印式が十月二日、和田山国有林において開催されました。

当日は、長和町長をはじめ大西署長及び署関係者、和田小学校校長、教育長等教育関係者と児童の皆さんの総勢三十四名が参加しました。

この遊々の森協定は、平成十四年に建設された和田小学校校舎の一部に地元国有林産のカラマツ（八十〜百年生）が使

用されたことから子供たちは森林に興味を持ち、小学校で使われたカラマツが残っている国有林で自然学習や緑の少年団の活動等を継続的にしたいという要望から、今回の協定の運びとなったものです。

調印式の記念行事として、旧校舎の廃材を利用した木製オカリナ作りを通じて、学校生活の思い出作りをしている和田小学校の取組に感銘し、交流が始まったシンガーソングライターの美咲さんと児童との合同演奏が行われました。

その後、記念看板の除幕式、森林教室が開催されました。

署としては、今後体験活動の円滑な実施等に協力していくこととしています。



美咲さんと木製オカリナを演奏する児童

低コスト・高効率作業システムへの取組の現地検討会を開催

【北信署】九月二十六日、往郷山国有林において、低コスト高効率作業システム取組箇所の現地検討会を開催しました。

当日は雨の中、長野県、管内の市町村、林業事業者、国有林の関係者五十名の参加がありました。

本検討会は、一昨年モデル地区において導入に向けての検討会を局主体で実施し、今年度からは各署が主体となって実施するものです。

活力ある森林づくりのために間伐の効率的な実施と、国産材の安定的な供給を行うため、作業路網と高性能林業機械を組み合わせた作業仕組みの普及・啓発を図ることを目的としています。

開会に当たり、村松署長より「木材の安定供給、国産材の復権に向けて、川上では、より低コストで素材を生産し、利益を山主に還元する必要がある。そのためには、路網を整備し、高性能林業機械を組み合わせた低コストの作業システムの推進が重要である」と挨拶があり、業務課技術専門官が現地説明を行いました。

現地では、四万十方式に習って作設した①昭和初期頃に炭焼のため使用された歩道等を活用した作業路②現地発生資材を利用した暗渠工等を見学してもらい、意見交換会では、作業路の流水に対応し



北信署独自の丸太とブルーシートを組み合わせた流水処理

た作設方法についての意見、質疑が出されました。最後に、森林整備部長から今後の課題等について先進地の事例を交えてのアドバイスを受け閉会しました。

今回の現地検討会では、効果的な作業路網の選定と高性能林業機械間の連携を図り稼働率を高めることが重要との認識を深めることができました。

今後更に局及び署等が連携し、トータルコストの低減による生産性の向上及び高効率な作業システムの普及に取り組んでいきます。

地域社会と国有林の連携強化に向けて活発な意見交換!

岐阜地区国有林野等所在市町村長

有志協議会を開催

〔岐阜署〕十月三日、下呂市において平成二十年度岐阜地区国有林野等所在市町村長有志協議会を開催しました。会議には、管内十三市町村から市町村

長と中部局・岐阜署・森林技術センターが出席しました。

冒頭、小林名古屋事務所長が国有林野事業の管理運営への協力に対するお礼と合わせ、「美しい森づくり」や森林吸収源対策への取組等の諸情勢について説明しました。その後、中部局・森林技術センターより二十年度の主な取組等について説明がなされ、その後、坂元署長より九・二西濃豪雨災害への対応状況、低コスト・高性能作業システムを導入した森林整備や市町村森林管理協議会への積極的な参画、間伐推進、当署の取組概要等を説明しました。

下呂市長からは、「九十二割が森林を占めている下呂市でも、間伐の遅れが深刻であり地球温暖化対策のためにも国の支援も得ながら推進が必要。また、小坂町「200滝」が岐阜の宝物に認定されており、国有林の協力を得ながら地域づくりに活かしていきたい」との話がありました。

意見交換では、災害に強い森林づくりのためには低コスト路網の普及と建設業者の協力が必要、木材価格の低迷に対応するため公共材としての木材利用の推進や利用者への助成が必要、官行造林跡地の再造林が難しいことから伐期の延長等の弾力的対応が必要、国有林の公益的機能の発揮に向けた森林整備・広葉樹の育成、治山事業の実施、国有林活用の要望など、大変活発な意見が出されました。

特に地域は、財源不足から森林・農地等が荒廃し、人がいなくなり大きな問題になっており、地方は声を上げていかなければならないとの意見が強く出されました。

これらの意見要望については、十月二十七日に開催される国有林野事業等所在市町村長連絡協議会で意見反映することを約束し終了となりました。



有志協議会の様子

復旧状況等について

大鹿村との治山懇談会を開催

〔伊那谷総合治山〕大鹿村は、村内一円の民有林が直轄治山区域となっているほか、三箇所の地すべり防止区域が設定され、国有林においても治山工事を実施しています。

こうしたことから、その復旧状況等について説明するため、大鹿村及び議会議員二十名と当事業所九名で「治山懇談会」を、九月二十六日、大鹿村役場において開催しました。

懇談会は、小渋川治山事業所主任からの復旧状況の説明に始まり、村長はじめ各議員の方々から質問や要望等がありましたが、「緑を再生する治山事業の役割」の理解はもとより、今後とも国有林野事業に協力する旨のうれしい言葉をいただくことができ、有意義な懇談会となりました。



復旧状況を説明する小渋川治山事業所主任

信越トレイル 全線開通記念イベント開催

「北信署」斑尾高原に秋の気配が感じられる九月十三日、信越トレイル全線開通記念イベントとして、シンポジウムが開催されました。

信越トレイルは、斑尾山から栄村に位置する天山水山までの信越国境沿いに開設されたトレッキングロードで、NPO法人信越トレイルクラブが主体となり、ボランティアにより開設作業が進められてきました。

ほとんどが国有林であることから、国有林部分を「関田トレイル」とし、整備や維持管理には信越トレイルクラブ・北信・上越署の三者が平成十六年に整備協定を結び、保安林協議等必要な手続きは当署が担ってきました。

延長八十キロメートルのうち牧峠から天山水までの約三十キロメートルが未整備区間でしたが、昨年までに踏査が終了し、今年には整備と道標設置が完了したことから全線開通に至ったものです。

当日は、関西大学教授の白石真澄氏による基調講演に続き、登山家の重廣恒夫氏の記念講演、同クラブの理事でもあるバックパッカーの加藤則芳氏による「信越トレイル全線開通までの道のりと今後の展望について」と題して発表がありました。

国有林からは中部・関東両局長はじめ



白石真澄氏の基調講演

指導普及課長、署長等が出席して情報の交換を行いました。

閉会後は交流会が開催され、整備に参加してきたボランティア等関係者は今までの活動を語り合っていました。

新潟県側でも、信越トレイルに接続するルートを整備しており、両県をはじめ多くの人が、ブナ林のトレッキングを楽しみ、併せて地域振興に寄与することが期待されます。

ボランティアとの連携

森は海の恋人

「漁民の森林」づくり

「愛知所」渥美半島と知多半島に挟まれている広大な三河湾は、古くから水産業が営まれていましたが閉鎖的の水域であるため、近年、水質悪化により海洋汚染が懸念されています。このため田原市の刈川干潟など、生物多様性に富んだ湿地の

保全や、上流の森林を保全するための森林整備及びその普及啓発など、三河湾の環境を守るための様々な活動が行われています。

毎年、段戸国有林において行われる「漁民の森林づくり」は、三河湾（漁場）の環境を守り将来に向けて豊かな水産資源を維持するため、蒲郡市を中心とした漁業関係者が参集して森林整備が継続的に行われているものです。

七年目を迎える今年も、去る十月七日、蒲郡市漁業協同組合関係者や三谷水産高等学校海洋資源科、NPO法人「穂の国森づくりの会」、蒲郡市、愛知県東三河農林水産事務所及び当所職員など総勢八十名が、段戸国有林の平成十四年にブナなど広葉樹を植栽した森林、「穂の国みんなの森林（ふれあいの森林協定）」（豊川水系源流部）と、新たに矢作川水系の源流部である段戸国有林「広葉樹転換林」の二カ所において森林整備を行いました。

当日は、午前には裏谷原生林で自然観察会を行い、午後からは広葉樹転換林において、シロモジなどの雑木をのこぎりで伐る作業に汗を流しました。

漁業者の中には、自分の植えた樹木を見つけて、随分大きくなったという感慨深い言葉が聞かれました。また、水産業の将来を担う若い高校生は、豊かな漁場づくりに切り離せない森づくりに参加した充実感と達成感に浸り、また来年も



作業を終えた三谷水産高校の生徒たち

段戸国有林に来ようと決意をみなぎらせていました。

平成二十二年には、名古屋市において生物多様性の保全に係る国際会議（COP10）が開催されますが、「海・川・山のつながり」の取組として、今後も長期にわたり継続して展開されるよう期待されています。

林業士木協会のボランティア活動

「飛騨署」九月二十二日、名古屋林業土木協会神岡支部により穂高国有林の柳谷（高山市奥飛騨温泉郷）において歩道施設のボランティア活動が実施されまし



転石を並べながら歩道を作設

た。柳谷は、平成十八年七月の集中豪雨により土石流が既設谷止五基を壊し、右俣谷本流に多量の土石が堆積するという大きな災害が発生した場所で、飛騨側から槍ヶ岳へ登山するコースとなっている右俣谷林道も大きな被害を受け、災害復旧工事に取り組み、昨年は高山市議会を始め多くの方に国有林治山の紹介として見学していただいた所です。

この復旧工事の完成に伴い、工事の進入路として使用した箇所を環境省とも打ち合わせる中、歩道を作設し今後治山のPRに活用してはとの地域提案もあり、ボランティア活動により実施することになったものです。

当日は協会から五名が参加し重機も使用する中、一八〇メートルの歩道を作設、特に現地の岩を並べた約四十メートルの歩道は技術者集団ならではの作業となりました。

当署では奥飛騨温泉郷にある栃尾小学校と「遊々の森」の協定を行っており、歩道周辺での様々な活動や治山事業のPRなど、ボランティア活動を生かした地域との交流の場としていく考えです。

「第三回森林ふれあい講座」と

連日愛知「ボランティア」

リーダーズスクール」

「名古屋事務所」八月二十三日、第三回森林ふれあい講座「木の実や小枝を使って夏休みの思い出にオリジナル作品を作ろう！」を名古屋事務所において、名古屋市熱田生涯学習センターと共催で開催しました。

当日は、雨模様でしたが、家族連れ十七名の参加がありました。はじめに自然の大切さ・森林の役割を紙芝居で学んだ後、森のクラフト作りを行いました。保育間伐で伐採されたヒノキの輪切り板や拾い集めた木の実等豊富な自然の部材を使いながら、クワガタムシやカブトムシなど思い思いの作品を一人で何個も完成させ、予定の時間をオーバーするほど夢中になって取り組んでいました。どれも想像豊かで、夏休みの思い出になる作品ばかりでした。

また、九月六日には、連合愛知主催の「ボランティアリーダーズスクール」が「愛・地球博」の会場となった「海上の森」において開催されました。これは、連合愛知が、ボランティア活動のリーダーを育成するために開講しているもので、今回は、「緑と水を守るために」というテーマで、二十三名の受講者がスクールに参加しました。

名古屋事務所が担当したプログラムは「山仕事体験」で、間伐作業の指導を行

いました。

慣れない作業でしたが、たくさん汗をかきながらも積極的に作業が進められました。終了後の質疑応答でも熱心な質問があり、リーダーとなる方々の頼もしい一面をかいま見ることができ、森林・林業の活性化に協力していただける人たちが増えることを願うものです。



できあがった作品を前にして

各地からのたより

「木曾川・森づくりin赤沢」

を実施

「木曾森林環境保全ふれあいセンター」九月二十七日、木曾郡上松町の赤沢自然休養林内等において、木曾川上・下流域の住民、森林ボランティア団体及びスタッフ総勢八十数名が参加して、「木曾川・森づくりin赤沢」が実施されまし

た。

前日まで、木曾地区では大雨・洪水注意報が出るほどの悪天候でしたが、当日は、朝から日が差す良い天気恵まれ、自然観察、間伐作業（子供はクラフト作製）を行いました。

自然観察では、森林鉄道に乗車した後赤沢自然休養林内をインスタラクターの案内により散策し、森林浴を楽しみ、また、間伐作業では、鋸を使用するの伐倒、玉切り等に苦労していた様子ですが、爽やかな秋の風が吹く中、心地よい汗を流していました。

間伐を実施している間、子供達はドングリや木の枝等を使い、思い思いにモックンやペンダント等の作製を楽しみ、完成した製品を持ち寄って自慢し合っていました。

平成十七年度から開催しているこのイベントも、本年度で第四回目となりましたが、リピーターも徐々に増え、複数回参加していただいている参加者もいまし



わぁ大きい。全然手が届かない...

た。また、「来年も是非参加したい」との声も聞かれました。

秋の美女平で森林散策を楽しむ

【富山署】十月四日、「とやまの森で森林療法を楽しむ会」(代表 鏡森富山大学副学長) の会員や応募参加者による十二名が、立山・黒部アルペンルート的美女平で森林散策を楽しみました。今回の散策会は「楽しむ会」の主催により、六月に続き二回目の実施となります。当日、参加者は美女平園地で、加藤署長から美女平の魅力を含めた歓迎の挨拶後、立山森林官の案内で周辺の見所を散策しました。途中にある広場では「楽しむ会」の森のカフェが開店され、一般の散策者も飛び入りで参加されたりして、ゆっくりとくつろぎ楽しまれていました。鏡森代表が持参された快適モニター器で林内を測定し、「今日の状態は少し肌寒いので、



自然を満喫する参加者

もう少しで不快と感じる境目です」との測定結果や森林セラピーの効果などの話を聞きました。

また、参加者が付近のスギ巨木に魅力を感じたようで、肌に触れたり「年賀状用」に写真撮影をするなどして楽しんでいました。昼食後は、途中で精神を集中し森の声を聞いたりしながら美女平駅まで散策をし、終わりに鏡森代表から「素肌の大地にふれ癒されました」の挨拶があり、次回の再会を約束し散会となりました。

初参加、地元熱田区民祭り

【名古屋事務所】十月四日、秋晴れのもと名古屋市熱田区の区民まつりが開催されました。名古屋事務所からは地元のみならず、



頑張って丸太切りに挑戦

つりに初参加ということ、パネル展示と丸太切り、鉛筆立てなどのクラフトやミニゲーム成功者へのネームプレートプレゼントなどを行いました。

慣れない丸太切りにも関わらず、最後まで自分でやると頑張る女の子や、ミニゲームに熱くなるお母さんなど、家族連れや友達同士で賑わいました。名古屋事務所では、地域イベントに積極的に参加し、森づくりの取組や国有林のPRに努めています。今回は、名古屋事務所が所在する熱田地域の皆さんとの繋がりを深める機会となりました。

「あなたがイメージする美しい森林(もり)」をテーマに森林(もり)の絵画コンクール開催

【名古屋事務所】中部森林管理局名古屋事務所、中日新聞社、中部日本治山治水連盟主催の森林の絵画コンクールの表彰式が十月十一日、名古屋熱田区神宮にある名古屋市教育センターにおいて行われました。応募総数三百六十七点の中から入賞作品として選ばれた二十点が表彰されました。

このコンクールは、木材の供給はもとより、きれいな水や空気の源として、さらに国土や生活環境の保全、安らぎの場の提供など私たちの生活に様々な恩恵を与えてくれる森林の大切さを、次代を担う子供達に、絵画を通じてもっと知って



中部森林管理局長賞(金賞) 中学生の部 伊藤千華さん
「静かな森をぬけると」



中部森林管理局長賞(金賞) 小学生高学年の部 渡辺良太郎さん
「森の中のたき」

いただき、より身近なものとしていただきたいとの思いで、平成九年度から取り組んでいるもので、今年で十一回目となります。テーマは、「あなたがイメージする美しい森林」や「あったらいいなこんな森林」などしました。昨年度を上回る、多くの作品の応募をいただきました。

表彰式では、小林名古屋事務所長が、「どの作品も、力作揃いで、審査は大変難航いたしました。また、作品には、森林に対する想いが、鮮明に描かれており、森林や環境への関心の高さを感じ、その反響の大きさに国民の森林を預かる者として、改めて責任の重さを感じております。

最後に、中部局では、国有林をフィールドとした森林環境教育に積極的に取り組んでいますので活用いただければと思います」と挨拶と審査経過を述べられました。引き続き、小林所長から中部森林管理局長賞（金賞）及び名古屋事務所長賞（佳作）、中日新聞尾上社会事業部長から中日新聞社賞（銀賞）及び中部日本治山治水連盟賞（銅賞）が渡されました。

なお、作品の展示については名古屋市教育センターにおいて、十月十～十二日まで開催しました。多くの応募者の家族が訪れ、家族で楽しそうに会話する姿が見られました。また、十月二十八日から十一月二十四日の間、瀬戸市の森林交流

館において展示を行います。

シリーズ 現場最前線

抜群のチームワークで

〔東濃森林管理署 川上・神坂班〕

当班の現場は、岐阜県中津川市川上及び神坂に位置する、木曾川右岸の川上国有林と左岸の湯舟沢国有林です。

班員三名は、川上及び神坂森林事務所管内において、春の林道開設に始まり、歩道修理、造林主作業、収穫調査、管理用務など一年を通じて多岐にわたった作業を行っています。

現場は、全般的に急峻地で、林道では大なり小なり何時も何処かで落石があり、笹覆地では笹に押し返されて前進もままならず、足元の確認もおぼつきません。またガラ場では浮石にぶらつき、穴に足を取られます。

これらのことを背景に、日頃から気を配っていることは、全員の意思疎通と事前の作業段取りです。これは、安全確保と作業の効率性においてより重要なものと考えています。

また、当署の安全大会では安全活動のマンネリ化を防ぐため

の方策として、署内各課、森林事務所、事業所単位で全員参加による、安全に関する作品を制作し、安全大会に発表を行います。安全意識の高揚に役立てています（重機を扱うことの多い当班は、手作りの重機のミニチュアに班員の顔写真をいれて安全意識を高めています）。

今後とも抜群のチームワークで怪我の無い職場を目指して、一日一日を積み重ねていきたいと考えています。



安全グッズの作製で意識の高揚を

行事・会議等の予定

◎低コスト現地検討会

11月5～6日 木曾署管内

11月5日 愛知所管内

◎名古屋シティフォレスト事業

11月6日 東濃署管内

11月15日 愛知所管内

11月20日 愛知所管内

◎金曜会国有林視察

11月12日 北信署管内

◎治山事業連絡調整会議

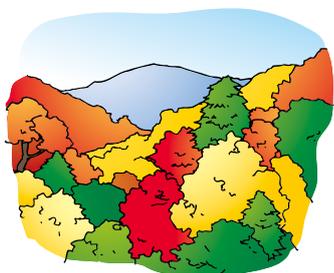
11月13～14日

◎本庁実地監査

11月17～21日 愛知所、南信署内

◎森林ふれあい講座

11月22日 愛知所管内



●訂正

第54号の9ページの小坂滝は、「濁滝」の誤りでした。お詫びして訂正します。



黒がみ 渓谷

【愛知所】愛知県のほぼ中央部に位置する岡崎市、その市街地から東へ約二十六キロ、本宮山県立自然公園の南西部の標高二五〇メートル六〇〇メートルの間に位置する景勝地が黒がみ渓谷です。

岡崎市内の中心を流れる乙川の支流、男川の源流部をなしており、一帯の黒がみ国有林は、明治時代に植栽されたスギ、ヒノキと、その中に点在するカシ、カエデ、クスギ等の天然樹木が優れた渓谷美を呈し、流れる清流は、大小さまざまな瀬と淵と滝をつくり、その変化に富む岩と、美しい森林が、みごとに調和し自然美をつくりだしています。

渓谷沿いにはバンガロー村、キャンプ場、コテージなど自然と親しめる環境が整備されており、野外生活が体験できるほか、マスつりやマスのつかみ捕りを楽しむこともできます。

春は鮮やかな新緑の中から野鳥のさえずりが聞こえ、夏は清流にカジカが鳴き、秋はカエデやクスギなどが渓谷を赤や黄色に染め、冬は渓谷沿いにハイキングコースを登れば本宮山（標高七八九メートル）の山頂からは南アルプス連峰や三河湾が一望できるなど、四季を通して訪れる人々の心を楽しませてくれます。

年間一〇万人以上の来訪者の多くは、名古屋、岐阜、浜松方面の方が多く、都市住民の保健休養の場として利用されています。

◆アクセス

〈所在地〉

愛知県岡崎市石原町牧原日影

○車でお越しの場合

①名古屋方面から

東名高速道路岡崎ICを豊橋市方面へ降り国道1号を東へ。

「本宿町沢渡」交差点を左折、国道四七三号を北へ。

「榎山町月秋」交差点を右折、県道三七号線を東へ。

②豊橋・浜松方面から

東名高速道路豊川ICを新城市方面へ降り国道一五二号を北へ。

「杉山北」交差点を左折、国道三〇一号を西へ。

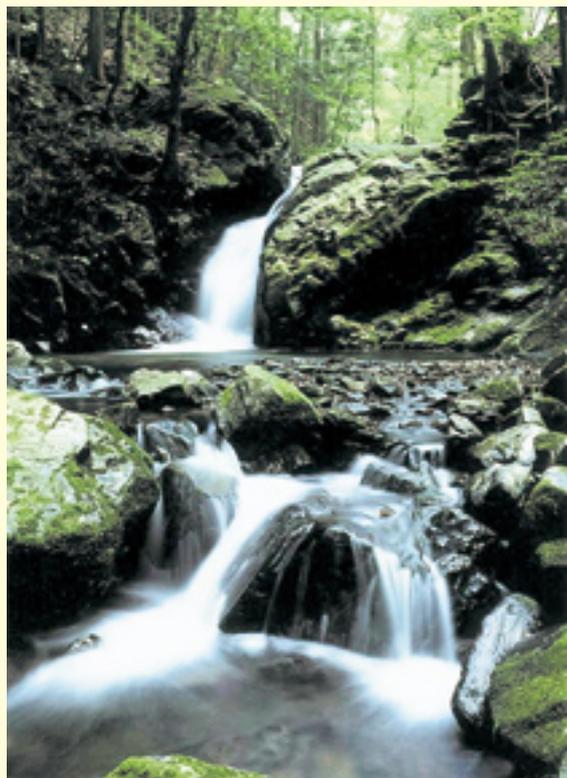
「和田」交差点を左折、県道五二七号線を西、道なりに五二六号線。

本宮山スカイライン（無料）を通り県道三七号線に出たら左折。

○公共交通機関をご利用の場合
名鉄名古屋本線「本宿駅」下車。
名鉄バス「くらがり渓谷」行き。



紅葉の黒がみ渓谷



黒がみ渓谷の渓流